本館の蔵書は昭和8年で100万冊，昭和34年に200万冊に達し，本年3月には250万冊をこえた。洋書120万，和書130万の割合である。日本の蔵書番付では昭和41年で300万冊をこえた東大には及ばないが，西の横綱格というところである。

3. 開室が待たれるウイルス研究所図書室

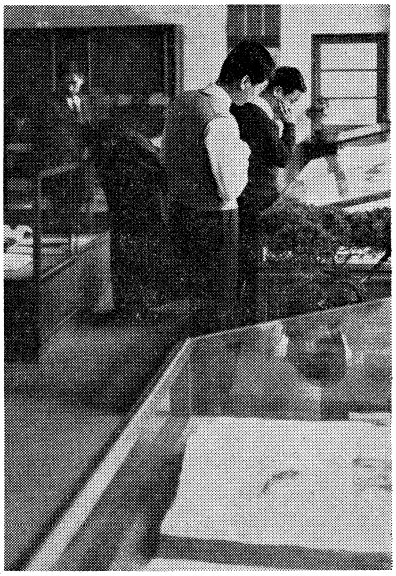
一昨年に着工されたウイルス研究所の新館は，附属病院の西部構内に建てられ本年3月31日竣工を見た。かつて，散在していた各研究部門が総合されることによって，その研究成果は，大いに期待されるものがあるといえる。

ウイルス研究所図書室は，1・2階の南側に設けられ，面積延48 m² の閲覧室と事務室，3層の積層式書架を配する延72 m² の書庫によって構成され，かつて分散していた図書を集中することによって，より合理的な利用が考えられていると聞く。近く開室されるために，目下，鋭意準備が行なわれつつあり，開室後は医学図書館および結核研究所図書室とともに，スクラムを組むなかでよりよき図書館作りへ一歩一歩前進されるよう希望したいものである。

展　　観

○ 京都大学貴重書展

本館では毎年，新入学生を歓迎する意味を含めて，4月に展観を催してきているが，今年も，4月11日より13日までの3日間，「京都大学貴重書展」と銘うった展観を開いた。この展観には，全学・各部局の協力を得て48点が出品され，連日多数の観覧者があった。展観品のおもなものは，奈良絵本6点，御陽成天皇宸翰，近衛信尹書状，鎌倉幕府免許旗章（御用船船章），1578年刊のステパヌス版プラトン全集，ホッブス著「リヴアイアサン」の初版本，デカルト著「省察」の初期刊本(1644)で西田幾太郎博士のサイン入りのもの，カール・マルクス及びエンゲルスの自筆書翰，フレーベル著「母の歌と愛撫の歌」(1844年刊)，中国殷代の甲骨（牛骨と亀甲），杉田玄白著「解体新書」(安永3年刊)，各種十手，ナウマン象の臼歯，平範記（仁平3年写，重要文化財）その他である。



写真：京都大学貴重書展

○ アメリカ・ペーパー・バック図書展

アメリカ文化センターの後援で4月18日より20日までの3日間，本館陳列室において開催された。自然，人文，社会各分野にわたるペーパー・バック1,200冊を展示した。

○ 英米大学出版局図書展

アメリカ文化センター，英国文化センターの後援により4月24日より26日までの3日間，図書館において「英米大学出版局図書展」が開催された。約5千冊の図書が展示され，盛況裡に終了した。